

2. [雲南市立病院の建設について]

大東町会場（大東地域交流センター）

Q13：雲南市立病院の説明で、規模と機能のところ、二次医療圏と言われたが、開業医と市立病院の連携だけなのか。また現状維持と言われたが、例えば麻酔科には先生がおられないということだが、市立病院では改善したいと思う事、困っておられる事もあると思うがどうか。

Q14：一昨年ひと月市立病院に入院した。職員の皆さんには親切に適切な対応をしていただき、喜んだが、施設が肝心なところで傷んでいて気の毒だと思っていた。新しくなるということで職員の皆さんも楽しみに喜んでおられると思う。質問は平面図的にどのあたりにどういう格好で建つのか聞きたい。

Q15：市立病院の建物について意見はないが、運営状況について聞きたい。資料の中の基本目標が3つあるが、これを達成する上で具体的にどうされていくか。達成具合をどのようにチェックされているか聞きたい。

A：二次医療圏は島根県内に7つある。雲南二次医療圏は雲南市・奥出雲町・飯南町で、その中に保健所がある形である。雲南市立病院の病床数は圏域の約5割を占めている。他の病院は100床前後であり、二次医療圏としてこの規模を維持したいということ。一次医療は開業医、かかりつけ医との連携をしている。高度医療、三次医療は松江日赤病院・県立中央病院との病病連携も考えて行かねばならない。医師の先生方、6月17日に皮膚科の先生が常勤となり、現在14診療科あって、常勤と非常勤のところがある。

場所については東棟と南棟は残す考えで、他の施設は全部取り壊すという計画。ただ、真ん中の文化倉庫とふれあい病棟の間に水路があり、ここで建設すると水路の移転が必要である。そういう問題を解決した後、建物はバイパス側に正面を向けて南棟と並行する形で接続したい。今年度基本構想を策定し、25年度実施設計を予定している。

市立病院の1～3の基本目標について、どういう取り組みかというご質問について。平成19年病院改革プランが出た。経営改善など21～23年度で取り組み、外部組織である評価委員会という組織を作り、23年度の実績に基づき最後の評価をしていただいた。また、病院がわかりづらいなどのご意見もあり、職員の出前講座の開催や、職員のQC、病院祭を行うなどしている。(病院事業副管理者)

A：開業医との連携についてどの圏域かということだが、これは二次医療圏。医師会の中でも旧大原の医師会は市立病院と深い絆を作って行こうと医師会の事務局を市立病院内に設け、医師会の先生に市立病院に入っていただくことになった。オープンベッドという方式、これは開業医の先生に診てもらっていた患者さんが入院される際、その先生に副主治医として入っていただき、それにより患者さんの今までの病歴とか治療歴などがスムーズに主治医に伝わる。紹介状ではわかりにくい部分の情報共有ができ、患者さんに非常に喜んでもらっている。最初は少なかったが、徐々に口コミで広がって、オープンベッドの使用も広がっている。病診連携はそういう形で広がっていると理解いただきたい。

また、専門医が少ないということ、市立病院は現在非常勤医師が多いが、常勤化の動きも出ている。専門医の問題は地域医療全体の問題で、一般に地方に専門医は来たがらない。都会は専門の患者さんが多いのでいいが、地域ではいろんな疾病や問題を抱えている患者さんが多く、専門医だけでは済まない。従って他の専門科がある大きな病院に集まりがちである。それを補完する意味で、昨年から地域総合医療科を作って、非常勤対応の科であっても、ある程度のレベルまで診るスキルを持っている医師がいれば、専門医との連携の中で治療を提供している。専門医の先生にも好評で、こういう流れの中で常勤医師確保につながっていくのではと期待している。

基本目標をどのようにということだが、QCという手法を取っている。顧客の満足度を増すということを目指し、それを最優先にした経営手法である。より患者に満足してもらえるような病院経営をする考えである。(市立病院院長)